

史料整理と歴史研究

第 64 号
平成 8 年 3 月

史料整理と歴史研究

— 『近世米作単作地帯の村落社会』を刊行して—

渡 辺 尚 志

はじめに

私は、一九九五年一月に、友人たちとの共同研究の成果を、渡辺編『近世米作単作地帯の村落社会—越後国岩手村佐藤家文書の研究—』（岩田書院刊、以下論集とよぶ）として刊行した。同論集は、副題にもありとおり、国文学研究資料館史料館（国立史料館、以下史料館と略称する）が所蔵する越後国頸城郡若手村佐藤家文書を素材とした近世村落史の研究書であり、執筆者全員が同一文書群を扱うことで、論集全体の統一性・求心性を担保しようとした。本稿では、私が同論集を作りながら考えたことを、1史料整理・目録作成と歴史研究、2近世米作単作地帯の地域的特質、の二点に絞って述べてみたい。

1 史料整理・目録作成と歴史研究

佐藤家文書は、総数約一二〇〇〇点に及ぶ質量ともに充実した文書群で、既に史料館の安藤正人氏によって整理がなされており、四冊の目録が刊行されている。すなわち、『史料館所蔵史料目録』第三八集（一九八三年）、第四九集（一九八九年）、第五二集（一九九一年）、第六〇集（一九九四年）である（以下、『目録』と総称する）。これらは、『目録』法の理論的發展過程が如実にわかる点で興味深い。さらに我々は、次にあげるようないくつかの点において、これらの『目録』から多大の恩恵を蒙った。

第一に、『史料一点』の記載が詳細なことである。とりわけ、書状について、その主要な内容が摘記され

目次

史料整理と歴史研究—『近世米作単作地帯の村落社会』を刊行して—	渡辺尚志(1)
史料所在調査報告	高山町会所・戸長役場文書3
新収史料紹介	受贈図書
史料管理学研修会カリキュラム	史料管理学研修会修了者一覽
兼報	
械的分類などではなく、たとえば、大項目としてたてられた「若手組（組合村）」・「若手村」・「佐藤家」の三つは、そのまま佐藤家文書の歴史的分析における三本の柱となるのであり、論集においても地域（組合村）・村・「家」の三者をトータルに説明しようと試みた。すなわち、文書群の内部構造を復元・明示するかたちでの目録編成は、歴史研究の領域とも深く関わる創造的作業であり、個別のテーマ分析を行う際に押さえておかねばならない前提でもある。そこで、論集では、『目録』から学とともに、第一章で、安藤氏に、佐藤家文書の構造について執筆していただいた。	(4)
以上述べたように、論集作成に当たっては、『目録』から多大の恩恵を蒙ったが、この経験をより一般化して言えば、歴史研究においては、歴史研究者とアーキビストが協力・共同することでよりよい成果を生み出せるということになる。ここで言う協力・共同とは、歴史研究者がア	(13)(12)(11)(6)(5)

ていたのは有り難かった。

第二に、「原形保存の原則」・「原配列尊重の原則」に則っている点である。佐藤家文書は、近世の年貢算用関係の書付や、近代の地租・地方税などの領収書類を大量に含み、しかもそれがバラバラに存在するのではなく、こよりで綴じられたり、袋に入れられたりして、一年ごとにまとめて保存されている点に特徴がある。そして、整理と目録作成にあたっては、こうした史料の原形・原配列を崩さないよう配慮され、目録上も原配列に即した記載がなされている。そのため、ともしれば「雑・覚」類などとして軽視されがちなるこれらの史料類の史料価値が著しく高められ、その結果、論集第三章において、岩手村周辺地域の複雑な年貢米納入システムの具体像を説明することができたのである。

第三に、『目録』第四九集以降、明確に、文書群の内部構造に基づいた項目編成がなされた点があげられる。そこでは、項目編成は単なる機

う。

2 近世米作単作地帯の地域的特質

本章では、論集で対象とした岩山村周辺の地域的特質について述べてみたい。岩手村のある頸城郡、ひいては越後国は、従来から米作単作地帯として特徴づけられてきた。すなわち、米を主要な生産物とし、豪雪のため裏作が不可能な地域だということである。そして、米を主要な生産物とするところから、次の二点の特質が生まれた。

アーキビストと歴史研究者を截然と二分するという考え方は採らないし、両者の協力・共同のあり方も多様だろうと思っている。私自身、本稿は歴史研究者の立場で執筆しているが、三年前までは史料館に勤めるアーキビストだったわけだし、これからも史料所蔵者のお宅での史料調査などは積極的に行つて、史料の発見・調査から目録編成、さらには歴史研究までの全過程に一貫して主体的に関わっていきたくと考えている。しかし、一方で、今日全国的に文書館が増加し、アーキビストによって優れた文書整理・目録作成がなされている以上、歴史研究者は史料保存運動においてのみならず、歴史研究においても、アーキビストとの一層の協力・共同が求められているといえよ

春期特別展示・公開講演会 近世文字社会のひろがり

展示期間 五月一三日(月)―五月二四日(金) 二階展示室

展示解説 五月一七日(金) 午前十一時―十二時 二階展示室

公開講演会 五月一七日(金) 午後一時三〇分― 一階大会議室

近世私文書の世界 国文学研究資料館史料館長 森 安彦

近世の農民日記 国文学研究資料館史料館教授 高木俊輔

近世村落文化の構造―文字文化と非文字文化―

国立歴史民俗博物館教授 高橋 敏

に年貢米を納入する村々の連合としての郷蔵組が、大肝煎の管轄単位である組の下部組織として設定された。郷蔵組も領主の年貢米徴収のために設定されたものだったが、郷蔵への年貢米納入は、実際には、地域の地主・庄屋層によって担われ、大肝煎は年貢米納入を最終的に統括するのみであった。納入実務の過半は、地主・庄屋層によって行われていたのである。領主の関心は年貢米徴収のみにあったが、地主・庄屋層にとっては、村役人として村請年貢を完納することとともに、地主として自己の所持地から小作米を確実に徴収することも、重要な課題であった。そこで、彼らは、自らの小作米徴収を年貢米納入と連動させて効率的に行うために郷蔵決済システムと呼びうる複雑・高度なシステムを作り上げ

ていった。年貢米納入と小作米徴収をともに円滑に行うためには、地域の地主・庄屋層が独自に複雑なシステムを構築していったところに、当地域の特色が認められるのである。

第二に、地主小作関係の広範な展開が、当地域の村落社会を特徴づけた。米は投機性の強い商品であり、また当地では他に投機の対象となるような生産がないため、いきおい富裕層は、その資金を、米を生み出す土地の集積に投下することとなった。こうして、当地域では、近世において既に地主小作関係が広範化したしたが、他方で、割地制や、永小作などの強固な小作権が存在することも当地域の特徴であり、この両者の関係をどう理解するかが問題となる。強固な小作権が地主経営と対抗的性格をもつことは明らかであり、割地制も地

主的土地所有に対して阻止的にはたらくことが既に指摘されている。しからば、いかにして両者の併存が可能だったのか。

一八世紀半以降百数十石規模の地主であった佐藤家は、割地制が行われていた岩手村において、当初は割地制の形骸化を試みたが、その後他の村人との矛盾を深めることを恐れて、一八世紀後半には小作人（支配人）に土地管理の権限を大幅に委ねるかたちでの小作地経営に重点を置くようになる。そうすることで、割地制下で自村民と共存しつつ、所持地を維持・拡大しようとしたのである。

次に、佐藤家の他村における所持地の経営をみると、そこでは小作人の土地に対する発言権は岩手村におけるよりさらに強く（永小作かそれに近い）、佐藤家と小作人との議論はままみられた。しかし、両者は常に対立関係にあったわけではなく、佐藤家が土地の管理を小作人・支配人に一任して在地のことに口を出さず、一定の小作料を収取しているだけならば、両者の共存は可能であった。

すなわち、岩手村においても他村においても、地主経営と、割地制や

強固な小作権とは、矛盾・対立と妥協・共存の両側面を有しつつ、併存していたのである。そして、小作人が地主に対して強い発言力を持ち得たのは、彼らが村落共同体やその代表者としての村役人の指示を背後にもつていたからであった。この、一方で地主小作関係の広範な展開と、他方での割地制や強固な小作権（私はこれを小作権の範疇からはみ出す部分もあるものと思っているが、本稿でこの点に立ち入る余裕はない）の存在、そして両者の矛盾を孕んだ妥協の構造とが、当地域の第二の特徴である。

また、この点に関わって、支配人の問題にふれておきたい。支配人とは、地主から小作地の管理・経営を任された請負人であり、他村のみならず岩手村にも存在した。彼らが、地主と小作人とを仲介したのであり、支配人には村役人クラスの有力農民がなることも多かった。彼らは、地主の小作地経営の代行者であるとともに、小作人や村落共同体の利害を代弁して地主経営に掣肘を加える存在でもあった。彼らは、地主と小作人（および村落共同体）との矛盾を孕んだ併存の構造の要に位置していたのである。

以上の二点が、当地域が米作地帯であることによる地域的特質であるが、当地域が単作地帯であることにより、冬季の広範な出稼ぎ（他国稼）という、第三の地域的特質が生まれてくる。この点については、論集第七章で、他国稼と村との関わりに重点を置いて論じられている。

ここで注意しておきたいのは、以上述べた地域的特質は、当地域に特徴的なものではあるが、他地域との共通性を全くもたない特殊例外的な事象なのではない。小作米をも含めて「御年貢」と呼んだり、年貢米と小作米が一括して徴収される事例は、他地域にも存在するし、割地制は、東北・中国・四国など各地方に広く見いだせる。また、地主が、他村の所持地の管理を支配人（呼称は地域によって多様でありうる）に委ねる事例も、関東・畿内などで確認できる。総じて、当地域で典型的にみられた諸特徴は、他地域の村落社会を理解する上でも、重要な示唆を与えてくれるように思う。

おわりに

これまで述べてきた点をまとめておこう。まず、我々の論集の方法的特徴として、文書館所蔵史料の整理

・目録作成と文書群の全体構造の把握というアーキビストの仕事と、それをういた歴史研究という歴史研究者の仕事とを従来以上に意識的に結びつけ、共同研究として一書にまとめた点があげられる。このような方法での研究は、日本近世史において前例が少ないこともあって、我々の研究が十分な成功を収めたという自信はないが、私は、今後こうした研究スタイルをさらに発展させていきたいと思っている。

次に、論集の内容に関わって、近世米作単作地帯の地域的特質を、三点指摘した。ただし、論集では、以上の点にとどまらない多様なテーマを扱っており、本稿ではその一端を述べたに過ぎない。

本稿を読んで本論集に興味をもたれた方には、ぜひ論集をお読みいただき、忌憚のないご意見・ご批判をいただければ幸いである。

◎閲覧業務停止のお知らせ

蔵書点検の実施にとまないと、左

記の期間の閲覧業務を停止します。

四月二二日(月)～五月二日(木)

閲覧業務再開 五月七日(火)

飛騨国 高山町会所・戸長役場文書

— その三 —

高山市郷土館蔵

一九九五(平成六)年二月二日から一五日までの四日間、岐阜県高山市上一之町七五番地高山市郷土館において、高山町会所・戸長役場文書(仮称)の第三回調査を実施した。参加者は、郷土館から谷島博之氏・政井陽子氏、当館から高木俊輔・鈴江英一・大友一雄・渡辺浩一・福田千鶴の計七名であった。

今回は一箱、一五四九点の史料を整理した。本史料群の概要と整理の方針については本誌六〇号において報告したので、ここでは、過去三回の所在調査で整理した範囲内の史料のおおまかな内容を紹介したい。

一から一〇の箱は願書留五二冊、一一・一二の箱は廻状留四冊、廻状請印帳一六冊である。その後は、日記・宗門帳が続くが大量のためカードよりは後日の課題とした。

八六は御何御下知御請証文留が文化一一年から明治二年まで六冊、天保一四年の被仰渡御請証文の留帳が三冊などである。八七は、天保改革期以降の独身者・同居人・八十才以

上・孝子などの調査の状や帳面、明治二年の高山町打ちこわし(梅村騒動)参加者の搜索関係の史料などである。八八は、家数人別増減差引帳・宗門人別入願書・住居証文・引越証文など人別関係の史料である。八九は、高反別小前帳など土地関係の帳簿がある。

九〇～九五は元禄八年以降の検地帳である。九六は、草高帳・家屋敷畑張替証文留など。九七は、割屋敷図・小前帳などのほか、土地関係の一件史料、特に天保改革時に飛騨の村々の水帳と村絵図を町が陣屋から預かり副本を作成提出することに関わる一連の史料は興味深い。九八は、年貢割付状と皆済目録である。九九は年貢取立帳・町組あての年貢金納受取書といった年貢関係の史料である。一〇〇は、普請関係の史料で、宮川にかかる鍛冶橋・中橋・筏橋の三つの橋の普請にかかわる史料が多い。また、町会所普請に関する史料もある。一〇一の箱も引き続き公的な普請関係の史料が入っている。

一〇二は、個々の町人から提出された普請許可願とそれに伴う図面や仕様帳の類が多い。一〇三と一〇四は、絵図の箱で、高山町絵図・陣屋絵図・町会所絵図のほか、明治六年の町組の絵図が大量にある。また、延宝二年「越中・飛騨両国境界評定書」は今のところ本文書群のなかで最古の史料である。

一〇五・一〇六は、盗み・博打など取締り関係や貸し金滞り出入りの状ものである。一〇七は諸営業に関する史料を集めた箱らしいが、明和三年の郡中より町年寄川上あての高山町米相場に関する一札は、大原騒動の直前の史料だけに注目される。一一四は、天保期と幕末維新期の米の流通に関する史料である。飛騨への米穀供給をめぐる町年寄や町会所の機能のみならず、郡中会所・郡中惣代・組合惣代などの機能の関連を追及できそうな材料であろう。

一二七は太政官布告、一二八・一二九派本県達と官省布達、一三〇は布達請印簿である。一三一は、高山町戸長役場の日誌や第二回内国勸業博覧会関係、貯穀関係の史料があるほか、明治一年の「旧高山町諸帳簿明細記」がある。一三二は、諸規則条例・小野組破産事件・町内賞罰

留といった綴りがある。一三三は、税金関係で、明治六～一年の組ごとの取立帳が大量にある。一三四は戸籍関係の史料で、送籍届けや寄留人名簿などである。一三五は、地券・埋葬・土地調査関係。一三六は、明治九年の地引帳二冊、一三七は建物公証見出帳・橋梁之營繕及開通式など六冊である。一三八は、勸業関係の史料六綴りである。一三九は、諸稼人名前取調書上帳や生糸・青物などの営業者調帳が二〇冊程度ある。

一四〇は、地元役人拝領地取調書上帳のほか寺社境内地関係の史料が多数ある。また、類焼人救助関係、「戸長事務取扱方二付申合」という表題を持つ五一点の綴りがある。さらに、明治五年の願書の束なども含まれ、その内容は多様である。一四二には、文書引継目録が多数含まれており、史料管理の変化を考える上で貴重な素材である。

以上のように、本文書群には実に多様な史料が含まれているので、その積極的な利用が待たれる。なお、本文書群の一部は、当史料館においてマイクロフィルムで閲覧公開している。詳細は「史料館報」五六・五八・六二および本号の新収史料紹介欄を参照されたい。(渡辺浩一)

平成七年度 新収史料紹介

⑥はマイクロフィルムによる収集を示す。

⑤ 信濃国 埴科郡 下戸倉村坂井家文書

坂井家文書のマイクロフィルムによる収集は、平成六年度に引きつづき本年度で二回目である。前年度が主として、冊子型文書を中心に、天和三年（一六八三）から安永六年（一七七七）までの一五二点を収録したのに対し、今回は、同じく冊子型文

書を中心に安永六年から安政四年（一八五七）までの三五一一点の文書を収集した。坂井家文書の概要については、『資料館報』第六二号（一九九五）に掲載した。

なお、坂井家文書は、すでに史料所在調査を一九八四年（昭和五九）・八五年の二か年にわたり実施し、その概要については、『資料館報』

第四二号（一九八五）、第四四号（一九八六）にそれぞれ掲載された。

坂井家文書については、『信濃国埴科郡下戸倉村名主坂井家文書目録』（坂井修一・坂井永一発行、一九九五年三月）が刊行され、その全体像の把握ができるようになった。（現蔵者Ⅱ長野県埴科郡戸倉町一八五五〇一、坂井永一氏。撮影収録点数三五二点、一〇リール、六、〇九六コマ）

⑥ 美作国 津山 松平家文書（愛山文庫）

特別研究「近世史料の古文書学的研究」により数年にわたって津山郷土博物館所蔵松平家文書をマイクロ撮影により収集してきたが、今回未収集分の一部を、仏教大学竹下喜久男先生、同大学図書館の好意により、同大学がすでに撮影しているマイクロフィルムから、その複製を得ることができた。こうした方法の採用理由は、第一に文書の劣化防止である。繰り返し撮影利用されることによる文書の劣化防止は、津山郷土博物館側の希望でもあり、今回の措置には同館の許可も得ている。右による収集史料は、文政十二年七月から明治四年十月にいたる「国元日記」一六七冊、家中の系譜「勤書」一六

冊である。なお、国元日記には虫損などの傷みから仏教大学でも未収集のものもある。当館既収史料の内容に関して、館報四六・五二・五六・五八・六〇・六二の各号を参照されたい。

（現蔵者Ⅱ津山郷土博物館、岡山県津山市山下九二。仏教大学図書館Ⅱ京都市北区紫野北花ノ坊町九六、収録点数五五リール）

⑥ 飛騨国大野 郡高山町 高山町会所・戸長役場文書

昨年度に引き続き戸長役場文書を中心に撮影した。明治十一年「旧高山町諸帳簿明細記」、十七年「戸長引渡目録」、六年から十四年までの戸長役場日誌、十四年から十八年の岐阜県布達、六年から二十一年までの「御指令綴込」、七年から三十五年までの「新聞紙縦覧所外綴」などを撮影した。

昨年度撮影分も含めて明治六年から三十三年までの引継目録が二一冊もあり、その都度文書が評価選別、整備され、近代における文書管理システムを検証するうえでも貴重な素材を提供している。一の町・二の町・三の町でそれぞれ保管していた文書を、大区小区制が施行された明治六年に区・戸長に引き継ぎ、八年に

堂々刊行！

史料館編

史料館収蔵史料総覧

名著出版刊 定価9800円

利用者を史料に導く手だて—これを検索手段と総称すると、文書館や史料館が作成すべき検索手段には、いくつかのレベルのものが考えられる。…しかし文書群名だけでは内容がわからないので、本来はこれに加えて各文書群ごとにその概要を記した「収蔵文書群概要」のようなものを作成するのが望ましい。（「編集にあたって」より）

三町・空町・新町・川西・町方を合併した折に、町会所で保管していた文書も引き継ぎ、出所を異にする一の町・二の町・三の町・町会所の各文書群を統合した。十一年「旧高山町諸帳簿明細記」で日誌・戸籍・地籍・租税・営繕・絵図面・民事之部・刑事之部・諸職業・出納・賭・振マ)

受贈図書 平成六年度 (三)

(一)内は寄贈者名(敬称略)ただし、省略されている場合があります。

龍ヶ崎市史 中世史料編別冊・近世史料

編Ⅱ・近世調査報告書Ⅰ(龍ヶ崎市教育委員会)

筑波町史 史料集 第11篇(茨城県)

筑波町)

船橋市史 史料篇(四・上)(船橋市)

春日部市史 第六卷 通史編1(春日部市)

板橋区史 資料編2 古代・中世(板橋区)

八王子千人同心の群像(八王子市郷土資料館)

料館)

柳田国男と世田谷(世田谷区教育委員会)

文学作品にえがかれた目黒(目黒区守屋教育会館郷土資料室)

東京 都市の明治(筑摩書房)

江戸東京自由大学(江戸東京歴史財団)

東京都埋蔵文化財センター調査報告

第17集(東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター)

府中市の文化財(東京都)府中市教育委員会)

新潟市史 資料編2-12(新潟市)

図説 新潟市史(同右)

福井県史 通史編2 中世(福井県)

松本市史 第四卷 旧市町村編Ⅳ(松本市)

松平忠固・赤松小三郎―上田にみる近代の夜明け―(上田市立博物館)

静岡県史 資料編7・11・21 通史編1(静岡県)

恤・蕃穀・雑之部に主題別分類し、文書も整理したようであり、この目録がその後の本文書群整理の基準になった。

(史料所蔵者)岐阜県高山市上一之町七五番地、高山市郷土館、撮影点数四四四点、一五リール、八五四九コマ)

今に見る京都一、二〇〇年(京都新聞社)

平安京一、二〇〇年(平安建都一、二〇〇年記念協会)

岬町内遺跡 平成五年度発掘調査概要(大阪府)岬町教育委員会)

兵庫県史 史料編 中世八(兵庫県)

岡田村史 全(備中岡田苔友会)

図説 徳島県の歴史(河出書房新社)

香川町誌 補遺(香川県)香川町)

松山藩政史の研究(関奉社財団)

九州寺社シリーズ 13(九州歴史資料館)

柳河藩の近世干拓(九州歴史資料館分館)

柳川古文書館)

宮崎県文化財調査報告書 37集(宮崎県教育委員会)

平成五年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書(同右)

野久首遺跡・平原遺跡・妙見遺跡(同右)

国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅲ(同右)

本地原遺跡(同右)

鳩園(東霧島神社)遺跡(同右)

永山原遺跡(同右)

三納代地区遺跡(城ノ下・柳原・志戸原(2次)(同右)

谷合第1・2遺跡・大塚遺跡(同右)

県道向山・日之影線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書(田向・平谷遺跡)(同右)

記録史料の保存・修復に関する研究集会

資料集(記録史料保存・修復研究集会実行委員会)

第二回(同右)

全史料協研修会テキスト(全史料協事務局)

辽宁省档案馆指南

経済史文献解題 一九九三年版(日本経済研究所)

岡山大学文学部研究叢書 9・10

野田市郷土博物館 35年の歩み

史料 神陵史―舎密局から三高まで―(神陵史資料研究会)

神社祭祀行事作法典故考究(神社本庁)

秀吉権力の形成(小林清治)

あなたは、大東亜戦争を知っていますか?

(日本を守る東京市民会議)

BEITRAGE TUR JAPANOLOGIE

BAND 32 (ウィーン大学)

洋学資料による日本文化史の研究Ⅶ(吉備洋学資料研究所)

乃木希典全集 上・中・下(乃木希典神社社務所)

解放経済下における数量制約をとまなう不均衡動学理論(近畿大学商経学会)

同志社大学 人文科学研究所の50年

専修大学 一五五年

歴史と民俗 11(神奈川大学日本常氏文化研究所)

江戸時代 鯨類図説考(磯野直秀)

郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報

告

告

告

告

告

告

告

告

告

美術分野の文献・画像資料の所蔵等のア

ンケート調査結果報告(アート・ドキ
ュメンテーション研究会)

歴史博フォーラム・科学の目で見る文化財

〔国立歴史民俗博物館〕

さがの人形の家「竹田人形」(イケマン

人形文化保存財団)

三木市有宝蔵文書 第一巻(三木市)

弘前藩の刑法典(十八)―文化律―(橋

本人)

むつ市文化財調査報告 第1、4、7、

20集(むつ市教育委員会)

今井家文書 一(庄司恵一)

田沢湖町史 第八集(秋田県) 田沢湖

町教育委員会)

図録 ゆざわの文化財(湯沢市教育委員

会)

新庄市史編集資料集 第十八号(新庄市

教育委員会)

〔同右〕別冊(同右)

羽黒山・月山・湯殿山・出羽三山資料集

上巻(出羽三山神社事務所)

三和町史 資料編 近現代(茨城県

三和町)

牛久市史料 近世―牛久助郷一揆―

(牛久市)

足利市文化財総合調査 総括報告書(足

利市)

万場町誌(群馬県) 万場町)

幸手市史 自然環境編Ⅰ(幸手市教育委
員会)

鳩ヶ谷市の古文書 第十九集(鳩ヶ谷市

教育委員会)

荒磯 千葉県成田市荒磯地域の調査 考古

編・民俗編(空港エンタープライズ(株)

田無市史 第三巻 通史編(田無市)

江東の昭和史(東京都江東区)

五十子敬齋日記 昭和五年・昭和六年

(日野市)

港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報

告 18(東京都 港区教育委員会)

東京都教育史 史料総覧 第1、4巻

(東京都立教育研究所)

町史へのいざない 二先祖様の生活史

(神奈川県) 開成町)

開成町史 自然編・民俗編(同右)

金山の町佐渡相川(新潟県) 相川町教

育委員会)

史跡 佐渡金山遺跡保存管理計画策定書

(同右)

福井県史 通史編5 近現代Ⅰ(福井県)

立野郷土史(高岡市) 立野地区自治会)

砺波市史 資料編1、4(砺波市)

医王山文化調査報告書 医王は語る(富

山県) 福光町)

富山県立山町総合公園内野沢狐幅遺跡発

掘調査概報(立山町教育委員会)

立山町文化財調査報告書 第2、3、5

、7、9、20冊(同右)

網野町誌 上・中巻(京都府) 網野町

役場)

加茂町史 第一、三巻(京都府)加茂町

年表 加茂町の歴史と文化(同右)

和知町誌 第二巻(京都府)和知町)

和知町誌 史料集(一)～(三)(同右)

小中学生用歴史年表(福知山市立図書館)

新修大阪府史 第6巻(大阪府)

若山神社史(若山神社事務所)

忠臣蔵 第五巻(赤穂市)

小野市の文化財(小野市教育委員会)

小野市文化財調査報告書 第1、3、6

、10、12、16集(同右)

浜玉町史 上・下巻・資料編(佐賀県

浜玉町教育委員会)

新編丸亀市史 2(丸亀市)

新熊本市史 史料編 第二・三・九上下

別編 第一巻 絵図地図上・下(熊本市)

玉名市史 資料篇 1、3、5(玉名市)

玉名市歴史資料集成 第一、十二集(同右)

北浦町史 史料編第一巻(宮崎県)北

浦町)

鹿児島県知覧町埋蔵文化財発掘調査報告

書 第4、6集(知覧町教育委員会)

知覧町民俗資料調査報告書(1)～(3)(同右)

知覧麗の武家屋敷群(同右)

知覧町文化財調査報告書 第3集(ミユ

ージアム知覧)

ふるさとの伝え話(一)～(四)(具志川市教育

委員会)

大日本史料 第五編之二十九 第九編之

二十 第十編之二十一 第十二編之五

十三(東京大学史料編纂所)

大日本古文书 家わけ第十東寺文書之十

家わけ第二十一 蜷川家文書之五(同右)

大日本古記録 一水記三 実躬卿記二

(同右)

大日本近世史料 市中取締類集二十一

細川家史料十四(同右)

日本関係海外史料 イエズス会日本書翰

集 訳文編之一(下)(同右)

川崎市の情報公開(川崎市公文書館)

浅草寺日記 第十七巻(金龍山浅草寺)

喜多院日鑑 第四巻 読み下し(川越喜

多院)

近世の豪農と村落共同体(渡辺尚志)

上智大学史料集 第5集(上智学院)

馬の文化叢書 8・9(馬事文化財団)

自家年譜 上(国立公文書館)

公文類聚目録 第10(同右)

流山市史 近世資料編V(流山市教育委

員会)

厚木市史 古代資料編(1) 近世資料編(2)

(厚木市)

平成七年度 (一)

日本外交文書 昭和期Ⅰ第一部第五巻

(外務省(外交史料館))

福島県立図書館増加図書著者・書名索引

〔岐阜県歴史資料館〕

岐阜県行政文書目録 昭和48年度編〔同右〕

岐阜県史料調査報告書 第16号〔同右〕

沼津市明治史料館史料目録 16

静岡県周智郡森町所在古文書目録 第8

10集〔森町史編纂委員会〕

山本家・大岩区有文書〔郷土史料展Ⅳ〕

〔豊橋市二川宿本陣資料館〕

名張市立図書館郷土資料目録

神宮文庫増加図書目録 第五冊

三重県史料調査報告書 X〔三重県総務部学事文書課〕

紀州尾鷲中村山土井家文書目録〔尾鷲市立中央公民館郷土室〕

滋賀大学経済学部附属史料館所蔵史料目録 第四十四集

信楽町史料調査報告書 (I)・(II)〔滋賀県信楽町教育委員会〕

大覚寺聖教目録〔学校法人大覚寺学園嵯峨美術短期大学総合美術研究所〕

立命館大学図書館蔵西園寺文庫目録

福知山市立図書館所蔵郷土資料目録

四方甚之丞家文書目録〔綾部史談会〕

沼田家文書目録〔同右〕

相根義夫家文書目録〔同右〕

京都府古文書調査報告書〔京都府教育委員会〕

和知町古文書目録〔京都府〕和知町〕

同 補遺〔同右〕

関西大学所蔵大阪文芸資料目録〔関西大学図書館〕

高槻市史史料目録 第十七号〔高槻市役所〕

道修町文書目録―近代編〔上巻〕―〔大阪〕

道修町文書保存会〕

東大阪市史資料目録 第1集〔東大阪市役所〕

大阪府行政資料・刊行物目録 第4集〔大阪府公文書館〕

大阪府公文書館所蔵公文書・刊行物目録

姫路市史編纂資料目録集 45・46〔姫路市教育委員会〕

新宮町古文書目録集 第八集〔兵庫県新宮町教育委員会〕

〔改訂版〕淡路文化史料館収蔵史料目録

第一集〔洲本市立淡路文化史料館〕

淡路文化史料館収蔵史料目録 第七・十集〔同右〕

収蔵資料目録 第一集〔西宮市立郷土資料館〕

行政資料目録 追録第3号〔鳥取県立公文書館〕

宝島寺所蔵寂庵和尚書写・手沢本目録

〔矢上山宝島寺〕

ふるさと歴史館収蔵文書総目録〔鳥取県〕

真備町ふるさと歴史館〕

瀬戸内海の島に関する所蔵図書目録〔広島県立図書館〕

鳥取県立図書館〕

瀬戸内海に関する図書総合目録〔同右〕

瀬戸内海を知るために―瀬戸内海関係資料収集事業報告―〔同右〕

瀬戸内海地方の鉄に関する所蔵図書目録〔同右〕

瀬戸内海関係資料所蔵図書目録〔船・海運の部〕

〔水産業・塩業の部〕〔同右〕

橋本家寄贈古書目録〔尾道市立図書館〕

広島県立文書館収蔵文書目録 第1集・第2集

山口県文書館地方調査員調査報告 22

山口県文書館蔵行政文書目録―一九三〇年代完結簿冊文書―

山口県文書館諸家文書目録 2

村田清風関係文書目録〔山口県〕三隅町教育委員会〕

歴史収蔵資料目録 第十八〔瀬戸内海歴史民俗資料館〕

高知市立市民図書館郷土資料目録 II

青柳種信関係資料目録〔福岡市立歴史資料館〕

大賀文書目録 (第三次)第六次整理分

〔福岡県立図書館〕

大賀文書目録 第七次―第十次整理分

〔同右〕

福岡県公共図書館郷土資料総合目録 追録6〔同右〕

徳重区有文書目録〔同右〕

福岡市文化財調査目録 4・5〔福岡市教育委員会〕

ミュージアム知覧図版目録 I

琉球列島における宗教関係資料に関する総合調査 総合目録編・漢籍目録編〔渡名喜明〕

東洋大学百年史 資料編Ⅱ上・下 通史編Ⅰ・Ⅱ 部局史編 年表・索引編〔東洋大学〕

中央大学史料集 第13集〔中央大学〕

神奈川大学史料集 第11集〔神奈川大学〕

保存手当てのてびき〔CAT〕

北海道立文書館史料集 第十

調子府町史〔北海道〕調子府町

豊富町史〔北海道〕豊富町〕

新修訓路市史 第二巻〔釧路市〕

釧路と凍土〔同右〕

弟子屈町史〔北海道〕弟子屈町〕

秩父別町史〔北海道〕秩父別町〕

仁木町史〔北海道〕仁木町〕

釧路町史〔北海道〕釧路町〕

新白老町史 上・下巻〔北海道〕白老町〕

函館市史 都市・住文化編〔函館市〕

五所川原市史 史料編2上巻〔五所川原市〕

新編弘前市史 資料編1-1・1-2

〔弘前市〕

「虫おくり」フォーラム報告書〔五所川原市〕

北上市文化財調査報告 第66集〔北上市教育委員会〕

北上市埋蔵文化財調査報告 第2-5

12・15〔同右〕

胆沢町古文書資料集 第一―三集〔岩

手県〕胆沢町教育委員会

鹿角市史資料編 第27集〔鹿角市〕

能代市史 資料編考古〔能代市〕

比内町史資料編 第9集〔秋田県〕比

内町

山形市水道七十年史〔山形市水道部〕

新庄市史編集資料集 第19号・第23号

〔新庄市教育委員会〕

米沢市史 第四卷〔米沢市〕

舟形の伝説〔山形県〕舟形町

西会津町史 第4卷〔中〕〔福島県〕西

会津町史刊行委員会

福島市史資料叢書 第65輯・第66輯〔福

島市教育委員会〕

羽黒山城 I〔福島県〕鳩町教育委員会

茨城県史料 近世政治編Ⅲ・考古資料編

〔茨城県〕

茨城大学付属図書館郷土史料叢書 一ノ

伍

茨城県総和町久能西原遺跡発掘調査報告

書〔総和町教育委員会〕

そうわの古文書 二〔同右〕

そうわの寺院 Ⅱ〔同右〕

そうわの絵馬と文字額〔同右〕

いまいち市史 通史編Ⅱ〔今江市〕

高根沢町史 史料編Ⅰ〔栃木県〕高根

沢町

シリース郷土小山の古墳を巡る(2)〔小山

市立博物館

新編高崎市史 資料編9〔高崎市〕

大間々町誌 別巻一・五 基礎資料V

〔群馬県〕大間々町誌刊行委員会

館林城調査報告書 第1集〔館林市教育

委員会〕

春日部市史 第六巻通史編Ⅱ〔春日部市〕

朝霞市史 民俗編〔朝霞市〕

伊奈町史資料調査報告書 第11集〔埼

玉県〕伊奈町

浦和市史料叢書 1〔浦和市〕

大宮市史 別巻二〔大宮市〕

上尾市史 第三巻〔上尾市〕

川口市古文書解説集 1〔川口市〕

川口市史調査概報 第7集〔同右〕

幸手市史調査報告書7〔幸手市教育委員

会〕

所沢市史調査資料 別集17〔所沢市史編

さん室〕

鳩ヶ谷市埋蔵文化財調査報告書 第7集

〔鳩ヶ谷市教育委員会〕

与野市史別巻 井原和一日記V〔与野市〕

中世石造遺物調査概報(3)〔埼玉県立歴史

資料館〕

埼玉県議会史 第十四巻・〔同〕資料編

市原の狛犬〔市原市教育委員会〕

鎌ヶ谷市郷土資料館調査報告書V

茂原市立木高橋家「御用留」 第三集〔茂

原市立図書館〕

読み下し高橋家御用留―文久四年―〔同

右

袖ヶ浦市史基礎資料調査報告書 1―5

〔袖ヶ浦市教育委員会〕

習志野市史 第一巻〔習志野市教育委員

会〕

野田市史編さん調査報告書 第1集〔野

田市〕

紙本着色千葉妙見大縁起絵巻〔千葉市立

郷土博物館〕

船橋市史 史料編四下〔船橋市〕

昭島市上川原遺跡第三次調査報告書〔昭

島市教育委員会〕

林ノ上遺跡〔第八次調査〕〔同右〕

栗ノ沢遺跡〔同右〕

江戸川ブックレット11〔江戸川区教育委

員会〕

大田区史〔資料編〕 諸家文書5〔大田区〕

大田区の文化財 第三十一集〔大田区教

育委員会〕

葛飾区民俗資料調査報告 都市の儀礼文

化と近郊農村I〔葛飾区郷土と天文の

博物館〕

葛飾のみちしるべ〔葛飾区教育委員会〕

葛飾区郷土と天文の博物館考古学調査報

告書 第5集

北区史資料編 古代中世2〔東京都北区〕

文化財研究紀要 別冊第九集〔東京都〕

北区教育委員会〕

多摩川台古墳群発掘調査報告書Ⅱ〔大田

区教育委員会〕

東京市史稿 市街篇第八十六 産業篇第

三十九〔東京都〕

東京都江戸東京博物館調査報告書 第1

・2集〔東京都江戸東京博物館〕

歴史の道調査報告書 第三集〔東京都教

育庁文化課〕

大悲願寺所蔵文化財調査報告〔下〕〔同右〕

東京都古文書集 第十三巻〔同右〕

中里遺跡 3―6〔東北新幹線中里遺跡

調査会〕

落合の民具〔新宿区立新宿歴史博物館〕

文化財シリーズ40〔杉並区教育委員会〕

杉並区の指定登録文化財〔平成5年度〕

〔同右〕

世田谷区史料叢書 第十巻〔世田谷区教

育委員会〕

世田谷区民俗調査第11次報告〔同右〕

滝ヶ谷遺跡 Ⅲ〔同右〕

釣鐘池北遺跡 I〔同右〕

写真集ちよつと昔のせたがや〔同右〕

千川上水関係史料集 I〔豊島区立郷土

資料館〕

豊島氏編年史料 Ⅱ〔同右〕

江戸町方書上〔三〕〔東京都港区立みなと図

書館〕

稲城市文化財調査報告書 第13集〔稲城

市教育委員会〕

アルバム国分寺〔国分寺市〕

小平市史料集 第四・五集〔小平市中央

図書館〕

郷土資料館資料シリーズ 第34号(八王
子市郷土資料館)

羽村市史料集二(羽村市郷土博物館)

民権ブックス 7・8(町田市立自由民
権資料館)

武蔵村山屋敷神集録(武蔵村山市教育委
員会)

地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡発掘調査
報告書1・2(帝都高速度交通営団他)

狸穴坂下の武家屋敷跡遺跡(東京都港区
教育委員会)

陸奥八戸藩南部家屋敷跡発掘調査報告書
I(同右)

港区の古文書一(同右)

港区指定文化財平成6年度(同右)

武蔵野市百年史 資料編II上・II下(武
蔵野市)

里正日誌 第七卷(東大和市立郷土博物
館)

平塚市史6(平塚市博物館)

寒川町史5・9(神奈川県 寒川町)

寒川町史調査報告書5(同右)

城山町史5(神奈川県 城山町)

藤沢市日鑑 第十三巻(藤沢市文書館)

藤沢市史料集(十九)(同右)

開成町史料編 古代中世・近世(1)(神
奈川県 開成町)

海老名市史叢書1(海老名市)

横浜市史II 資料編5(横浜市)

(以下次号)

1995年度 史料管理学会 カリキュラム構成

A. 長期研修課程 (東京会場)

- 一 [文書館総論]
- 1、文書館の歴史 史料館助教授 安藤 正人
 - 2、現代の文書館とアーキビストの役割 史料館長 森 安彦
高野 修
 - 3、地域社会と文書館 藤沢市文書館長
 - 4、文書館の法律問題 信州大学教育学部教授 井出 嘉憲
史料館助教授 山田 哲好
- 一 [記録史料論]
- 1、記録史料論総論 史料館教授 井木 幸男
 - 2、情報とコミュニケーション IRIS 情報学研究所長 仲本秀四郎
日本大学商学部教授 友安 一夫
 - 3、組織体と記録 東京大学史料編さん所教授 保立 道久
 - 4、古代中世史料論 史料館助教授 大友 一雄
史料館助手 福田 千鶴
高木 俊輔
渡辺 浩一
 - 5、近世史料論1(総論・幕藩寺社の史料) 史料館教授 鈴江 英一
 - 6、近世史料論2(村の史料) 史料館教授 渡辺 樹
 - 7、近世史料論3(町の史料) 史料館助手
 - 8、近現代史料論1(行政の史料) 史料館教授 井木 幸男
 - 9、近現代史料論2(個人の史料) 小風 秀雅
 - 10、近現代史料論3(民間の史料) 史料館教授 井木 幸男
 - 11、近現代史料論4(企業の史料) 史料館教授 小風 秀雅
 - 12、史料論特論(絵画史料論) [同]文学研究資料館整理閲覧部長 大西 広
- 一 [記録史料管理論(1)-総論及び調査収集論-]
- 1、記録史料管理論総論 史料館教授 鈴江 英一
 - 2、記録管理論 あふれんつ研究所代表 作山 宗久
 - 3、史料調査論 史料館助手 渡辺 浩一
 - 4、官公庁文書の評価と移管 山口県文書館専門研究員 戸島 昭
 - 5、地域史料の収集と受入 埼玉県立文書館古文書課学芸員 新井 浩文
 - 6、史料管理学特別講義 作陽短期大学教授・史料館客員教授 馬淵 久夫
- 一 [記録史料管理論(2)-整理記述論-]
- 1、史料整理と目録編成の理論 史料館助教授 安藤 正人
 - 2、近世史料の整理と目録編成1 史料館助教授 大友 一雄
 - 3、近世史料の整理と目録編成2 史料館助教授 大友 一雄
史料館助手 福田 千鶴
同助手 渡辺 浩一
 - 4、近現代史料の整理と目録編成 史料館教授 鈴江 英一
 - 5、文書館とコンピュータ 神戸商科大学情報処理教育センター教授 周防 節雄
史料館助教授 山田 哲好
- 一 [記録史料管理論(3)-保存管理論-]
- 1、文書館における史料保存活動 史料館助手 青木 睦

- 2、史料の保存環境と劣化損傷要因
 - 3、史料の劣化損傷の予防 史料館助手 青木 睦
 - 4、劣化損傷史料の保存修復1 東京国立文化財研究所修復技術部長 増田 勝彦
東京修復保存センター五日市アトリエ代表 坂本 勇
 - 5、劣化損傷史料の保存修復2 宮内庁書陵部修補師長 横山 謙次
同修補師 安藤 清
 - 6、マイクロ写真の利用 前大阪ビジュアル・コミュニケーション専門学校長 後藤 公明
 - 7、文書館の災害対策 国際連合地域開発センター防災計画主幹 小川雄二郎
- 一 [史料管理の実際-施設訪問-]
- 1、藤沢市文書館における史料管理 藤沢市文書館長 高野 修
 - 2、東京大学史料編纂所における史料管理 東京大学史料編さん所助手 山口 和夫
 - 3、国立公文書館における史料管理 国立公文書館主任公文書専門官 伊藤 信男
 - 4、国立国会図書館における史料管理 国立国会図書館政治史料課長 渡辺 樹
 - 5、埼玉県立文書館における史料管理 埼玉県立文書館主任司書 原 由美子
- B. 短期研修課程 (広島会場)
- 一 [文書館総論]
- 1、現代の文書館とアーキビストの役割 史料館長 森 安彦
- 一 [記録史料論]
- 1、記録史料論総論及び近現代史料論 史料館教授 井木 幸男
 - 2、近世史料論1(総論・町と村の史料) 史料館教授 高木 俊輔
 - 3、近世史料論2(幕藩の史料) 史料館助手 福田 千鶴
- 一 [記録史料管理論]
- 1、地域史料の調査と収集 史料館助教授 安藤 正人
 - 2、官公庁文書の評価と移管 広島県立文書館主任研究員 安藤 福平
 - 3、近世史料の整理と目録編成 史料館助手 渡辺 浩一
 - 4、近現代史料の整理と目録編成 史料館教授 鈴江 英一
 - 5、史料の保存環境と劣化損傷の予防 史料館助手 青木 睦
 - 6、劣化損傷史料の保存修復 柳宇佐美松鶴堂代表取締役 宇佐美直八
同取締役 宇佐美直秀
同取締役 田中 保好
史料館助教授 山田 哲好
 - 7、史料の利用と普及活動 史料館助教授
- 一 [史料管理の実際-施設訪問-]
- 1、広島県立文書館における史料管理 広島県立文書館主任研究員 安藤 福平
同 研究員 松井 輝昭

1995年度（通算第41回）史料管理学研修会修了者一覧

一 [長期研修課程]

- 1、小池 泰久（千葉県印西市役場）
市町村史編さん室における史料保存事業の推進について—印西市史編さん大綱の策定と印史協の設立—
 - 2、伊藤 靖晴（明治大学）
文庫擁書楼の機能と書籍の利用に関する一考察—小山田与清「擁書楼日記」の分析による—
 - 3、山田 洋一（京都府立総合資料館）
安藤氏提唱方式による史料の整理体験報告—総合資料館蔵古久保家文書内「番日記」について—
 - 4、清水 邦俊（千葉県文書館）
文書群の受け入れに伴う容器の選定について—千葉県文書館の場合—
 - 5、膝館寿巳恵（国立国会図書館）
史料目録のデータベース化について
 - 6、鈴木 一哉（群馬県立文書館）
上野国甘楽郡本宿村の近世名主引継文書—神戸金貴家、勅使河原文江家文書を事例に—
 - 7、桑尾光太郎（学習院大学史料館）
大学史編纂における資料の収集と整理—大学文書館への展望と課題—
 - 8、堀内 謙一（久喜市公文書館）
「公文書のライフサイクル」試論—公文書館設立のための理論的前提について—
 - 9、松井 輝昭（広島県立文書館）
現状記録の評価・選別と新聞記事—自治体文書館の視座から—
 - 10、服部 勉（船橋市西図書館）
船橋市西図書館所蔵郷土資料の整理—その現状と電算化について—
 - 11、小松 寿治（板橋区史編さん調査会）
アーカイブスのない「まち」のあり方—アーカイブスが設置されるまで、なにを行うべきか—
 - 12、松本 郁子（早稲田大学演劇博物館）
展示空間の設備について—演劇博物館70周年リニューアルをめぐる—
 - 13、山田 茂美（堺市役所）
堺市における公文書の収集の可能性について
 - 14、延原万利子（一橋大学大学院）
「村入用」帳の史料的分析—和泉国大島郡上神谷豊田村小谷家文書を素材に—
 - 15、柳下 宙子（外務省外交史料館）
外務省における公信書式の変遷について
 - 16、上甲 典子（亀岡市役所）
現状記録方法の一考察
 - 17、阿部 由佳（武蔵大学大学院）
個人と現地保存—志度寺史料調査を一例として—
 - 18、岡崎 美保（東京女子大学大学院）
万葉集史料とその利用について
- ### 二 [短期研修課程]
- 1、須藤 健吉（秋田県公文書館）
秋田県公文書館における地域史料収集の現状と課題
 - 2、梅美 康一（島根県総務課）
島根県庁文書「古文書簿冊」について—現状と課題—
 - 3、石川 幹彦（愛知県公文書館）
愛知県公文書館における歴史的価値を有する公文書の評価・選別についての問題点
 - 4、佐々木 淳（宮城県石巻文化センター）
石巻文化センターにおける記録史料管理の現状と課題
 - 5、藤谷 彰（三重県学事課）
三重県史における資料調査の一事例と今後の調査のあり方について—三重県紀和町西家の史料調査を題材にして—
 - 6、児嶋ひろみ（福岡県立図書館）
福岡県立図書館における近世史料管理の現状と今後の課題

- 7、松浦 早苗（関西大学図書館）
関西大学図書館における文書・古典籍の保存環境等について
- 8、平井 義人（大分県立先哲史料館）
史料保存機関における史料購入の事例と問題点—史料の現地保存主義をめぐる—
- 9、尾多賀晴悟（広島県新市町教育委員会）
新市町に文書館をつくる試み
- 10、堤 美智子（京都大学人文科学研究所）
サン＝シモン、フォーリエ文庫について—史料管理的側面から—
- 11、山中 節子（京都大学附属図書館）
京都大学附属図書館における史料の管理と利用者サービス—大学資料、貴重書を中心に—
- 12、神山 朋也（愛媛県重信町教育委員会）
町立の歴史民俗資料館における体にあった文書資料の管理保存のためのアプローチ
- 13、根本 直樹（函館市役所）
地方都市における「地域情報センター」を考える
- 14、東原(岩本)和代（泉佐野市教育委員会）
泉佐野市史編さんにおける史料収集と整理についてと今後の課題
- 15、佃 隆一郎（愛知大学大学院）
愛知大学東亜同文書院大学記念センターへの寄贈資料について—山田家資料の概要と今後の課題—
- 16、藤澤 達弘（名古屋市政資料館）
名古屋市政資料館における公文書整理にともなう保存管理上の問題について
- 17、宇佐美雅樹（福井県史編さん課）
福井県史編さん資料の利用に向けて—情報の記録化を中心に—
- 18、垣花 優子（沖縄県公文書館）
公文書館のスタート・公文書専門員の役割について
- 19、野内 政美（茨城県立歴史館）
ある町立文書館への摸索
- 20、名護より子（南沖縄マイクロセンター）
北谷町における行政文書整理委託業務について
- 21、小山 泰弘（香川県立文書館）
香川県史編纂と文書館
- 22、大林 宏至（中央学術研究所）
立正佼成会における史料整理—教団史編纂史料を中心に—
- 23、高山 智永（叻広島平和文化センター）
財団法人広島文化センター情報資料室における資料収集と整理の現状と課題
- 24、鳥野 茂治（大阪府熊取町教育委員会）
旧支配地域ネットワーク活動の意義と課題—泉州地域を例として—
- 25、新川 武紀（栃木県立文書館）
史料の証拠価値に関する若干の考察
- 26、山田 尚子（三菱史料館設立委員会事務局）
三菱の史料 整理の現状と課題
- 27、江上 和仁（愛知県県史編さん室）
史料管理におけるパソコン利用について
- 28、安部 公子（福岡県県政情報課）
福岡県における歴史的文書の収集について—公文書の収集を中心に—
- 29、宮原千香子（呉市教育委員会）
呉市入船山記念館内「呉近世文書館」の現状と課題
- 30、寺本 智美（岡山大学附属図書館）
池田家文庫藩政史料のマイクロ化と今後の課題について
- 31、掃部 修司（枚方市教育委員会）
枚方宿三矢村庄屋・宿役人奥田家の蔵の整理について

彙報

○史料の収集

・山口県下松市堀家文書が同市山本精一氏より寄贈された。

・本年度のマイクロフィルムによる史料収集は、美作国津山松平家文書、飛騨国大野郡高山町戸長役場文書、信濃国埴科郡下戸倉村酒井家文書について実施した。(うち松平家文書は特別研究「近世史料の古文書学的研究」による)各文書の概要については本号「新収史料紹介」を参照されたい。

○史料の所在調査

本年度は、飛騨国大野郡高山町会所・戸長役場文書について実施した。詳細は本号「史料所在報告」を参照のこと。

○史料保存機関事務連絡および調査

次の機関を対象に実施した。沖縄県公文書館・沖縄県立図書館(三月六日～八日、藁谷美枝子)、山口市文書館・佐賀県立図書館・九州大学九州文化史研究所(二月二十一日～二十三日、林宏保)

○評議員会と運営協議会の開催

一九九五年六月一日・一二月一日・一九九六年二月一日に運営

協議員会が、一九九五年七月二日・一九九六年三月五日に評議員会がそれぞれ開催され、教官人事・管理運営・次年度事業計画について評議ないし協議された。

○出版物の刊行

1、「史料館所蔵史料総覧」を名著出版から刊行した。

2、定期刊行物としては「武蔵国大里郡大麻生村古沢家文書目録(その二)」を「史料館所蔵史料目録」第六二集として、「山城国諸家文書目録(その一)」を同じく第六三集としてそれぞれ刊行した。

3、「史料館研究紀要」第二七号を刊行した。内容は次の通りである。

・御用留の性格と内容(八・完)――武州荏原郡上野毛村「御用留」の検討―― 森 安彦

・近世中後期の村落と村定――信州高島領乙事村の事例から――富善一敏
・アーキビストの専門性―普及活動の視点から―― 森本祥子

・近現代史料整理論の状況―近現代史料整理論ノート― 鈴江英一
・民間所蔵史料の保存・管理に関する研究―山梨県大月市星野家文書を素材として――

安藤正人・青木 睦
4、「史料館報」第六三号および六

四号(本号)を刊行。なお次号は本年九月刊行予定。

○一九九五年度史料館理学研修会修了証書の授与

所定の教科目を履修し、レポート審査に合格した別掲の方々に修了証書を授与した。

○一九九六年度史料管理学研修会の開催予定

一九九六年度の史料管理学研修会は次の通り開催を予定している。追って募集要項を関係機関に配付する。

A長期研修課程 会場、国文学研究資料館 前期 七月一日～二六日 後期 九月二日～二七日(前後期とも最後の一週間は研修レポートの作成にあてる。) 募集人員三五名。

B短期研修 会場、長野市 ホテル信濃路 十一月一日～二二日(最後の二週間は研修レポートの作成にあてる。) 募集人員三五名。なお、研修レポートの作成は長期・短期ともそれぞれの自宅ないし職場において作成してもよいものとする。

○館内研究会(敬称略)

「二四八回」一九九五年一〇月一九日 古沢家文書の日録編成 丑木 幸男

山城国諸家文書の目録編成

福田 千鶴

「二四九回」一九九六年一月三〇日

在英日本史料調査の成果と課題

調査班A・B

「二五〇回」一九九六年二月二三日 近世史料の調査について

京都大学教授 藤井 譲治

○総合研究に関する研究会

一九九六年二月二七日、総合研究A「幕藩領主文書と村方・町方文書群の発生・展開・伝存に関する史料学的研究」に基づき、研究会を開催した。報告は以下の通り。

「飛騨郡代高山陣屋文書」調査報告―その組織構造と文書群管理の一端に注目して― 史料館 大友一雄

高山町会所文書の史料「管理」と原秩序 史料館 渡辺 浩一

近代的史料管理秩序の形成―高山町会所・戸長役場文書の引継日録からみた― 史料館 丑木 幸男

○総合研究に関する調査研究

総合研究A「幕藩領主文書と村方

・町方文書群の発生・展開・伝存に関する史料学的研究」に基づき以下の通り史料調査を実施した。①一九九五年十一月二七日～十二月一日、

岐阜県歴史資料館。②一九九六年一月一日～一九九日、岐阜県高山市郷土館。

○特定研究に関する研究会

特定研究「収蔵史料の修復・復元

に関する基礎的研究」に基づき以下の通り研究会を開催した。

①一九九五年二月二五日
文書館の環境管理の実際

茨城県立歴史館 高橋 実

世界の文書館における建築・設備について
史料館 青木 睦

複合施設内文書における建築・設備の課題
和歌山県立文書館 龍野 直樹

群馬県立文書館における新設中間保存管庫の建築・設備の課題

群馬県立文書館 田中 康雄

②一九九六年一月一二日

断裁史料の復元におけるコンピューター支援の成果
神戸商科大学 沢村 正信

③一九九六年二月二〇日

特定研究の五年間のまとめ青木 睦
紙史料の保存と環境汚染測定
二宮 修治

文化遺産保存科学専門職の養成
東京芸術大学 稲葉 正満

○特定研究に関する調査研究

一九九六年三月四日～六日、特定研究「収蔵史料の修復・復元に関する基礎的研究」に基づいて、丑木幸男・山田哲好・青木睦が石川県立美術館等において調査研究を実施した。

○長期在外研究

福田千鶴が一九九六年三月二〇日

～一九九七年一月一五日、ハーバード大学東アジア言語文化学部(米国)において文部省在外研究員として研修を行う。

○海外出張

海外科研「在英日本史料の所在と現状に関する調査」に基づいて以下のように出張を行った。

A一九九五年一月二六日～二月一日、安藤正人、B同年二月二日～一六日、森安彦・大口勇次郎・

神立孝一、C一九九六年二月四日～一八日、高木俊輔・丑木幸男・山田

哲好・安藤正人、D同年三月一日～二四日、安藤正人・大友一雄・青木睦・渡辺浩一。

○海外研修

・安藤正人が一九九五年一〇月二四日～三〇日まで、「第七回記録史料

保存教育研修に関する国際シンポジウム」出席のため文化財保護振

興財団の助成により、アメリカ合衆国テキサス州オースチンのテキ

サス大学において研修を行った。

・青木睦が、一九九五年九月二三日～一〇月八日まで、「イギリスにお

ける保存・修復ならびに紙質調査研究の現状」を調査するため、財

団法人福武学術文化振興財団の研究助成によりイギリス(ロンドン

・オックスフォード)に海外研修を行った。

○研究交流

一九九六年一月二三日、「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」と題する研究会を開催した。報告者は次の通り(敬称

略)

史料管理学(文書館学)の研究分野と研究動向―「文書館学文献目録」

の分析から―史料館 山田 哲好

歴史研究者とアーキビストの協力体制をどう築くか―インドネシア現代

史研究における経験から―名古屋大学 倉沢 愛子

記録史料の記述の標準化をめぐる国際動向
北海道立文書館 青山 英幸

○来訪者・見学者(海外)

・一九九五年一月九日、中国档案学会および企業档案工作考察代表

団一〇名。
同年一月二〇日、マレーシア・

サバ州立文書館前館長ジョアンナ・

ニキシー氏。
一九九六年二月六日、ロシア外国

文献図書館長ゲニエヴァ・エカテリーナ氏。

○史料館教官研究・教育活動一覽(一九九五年発表のもの。ただし、

大学出講は一九九五年度)

①森 安彦

・編著「信濃国埴科郡下戸倉村名主坂井家文書目録」(坂井修一・坂井永一発行、三月)

・共編著「世田谷区史料叢書」第一〇巻(世田谷区教育委員会、三月)

・共編著「里正日誌」第七巻(東大和市政教育委員会、三月)

・監修・共編著「古文書を読む―解読実践コース」(日本放送協会学園、四月)

・論文「旗本の地方知行の動向と小農村落の確立」(藤野保編「論集幕藩体制史 第五巻 旗本と知行制」再録、雄山閣出版、一月)

・論文「御用留」の性格と内容(七)―武州荏原郡上野毛村「御用留」の検討―(「史料館研究紀要」第二六号、三月)

・論文「近世史料論―史料整理と目録編成―」(駒沢大学「史学論集」第二五号、四月)

・報告「国文学研究資料館史料館の現状―その事業と研究―」(「日本歴史学協会年報」第一〇号、三月)

・書評「川崎市史 通史編2(近世)」(「川崎市史研究」第六号、川崎市公文書館発行、三月)

・報告「世田谷区教育史」編さん

に携って」。(藤沢市教育史研究
第四号、藤沢市教育文化センター
発行、三月)

・解説「古文書の整理と保存」(「古
文書通信」第二五号、日本放送協
会学園、五月)

・寄稿「地方史研究と『多摩のあゆ
み』」(「多摩のあゆみ」第八一号、
たましん地域文化財団発行、一一
月)

・講演「幕末維新期の三軒茶屋」
(世田谷区誌研究会主催、世田谷
区弦巻中央図書館・教育センター、
七月二三日)

・講義「地域社会と文書館」(茨城
県立歴史館主催第二一回市町村史
料保存担当者研修会、同館、一〇
月一八日)

・講義「古文書の収集・整理」(国
立公文書館主催、第八回公文書館
等職員研修会、国立公文書館、一
月一〇日)

②高木俊輔
・分担執筆「松本市史」歴史編Ⅱ近
世(松本市、一月)

・講演「幕末赤報隊と美濃」(大垣
市文化財保護協会、大垣市スイト
ピアセンター、七月一六日)

・共同執筆「金剛輪寺と草莽志士た
ち」滋賀県秦荘町歴史文化資料館、
一〇月二二日刊

・大学出講 茨城大学人文学部 日

本近世近代史特講
・大学出講 立正大学文学部 日本
史特講

③鈴江英一

・論文「北海道二級町村制」につ
いての考察「北海道一級町村制」
各条項との比較など」(「史料館
研究紀要」二六号、三月)

・報告要旨「地域キリスト教史の試
みー札幌市史の事例による」
(「横浜プロテスタント史研究会
報」No16、四月)

・講演「廻浦と開拓ー維新前後北海
道の史料事情」(国文学研究資料
館公開講演会、五月一九日)

・講演「記録を残すことの重み」
(新潟県立文書館公文書等利用講
座、六月二二日、新潟市)

・講義「文書館における公文書の選
別について」(埼玉県立文書館文
書史料取扱講習会、一月二三日、
浦和市)

・講義「函館洋教事件・一八七二ー
七五」(大学院原典セミナー、八月)
・講義「戦時下キリスト教史研究の
課題」(新札幌市史編集室研究会議
一一月二九日、札幌市)

・報告・報告要旨「史料管理学研修
会の立場から」(シンポジウム「ア
ーキビスト(文書館専門職)問題
を考える」、七月八日、東京都、
全史料協「会報」No34、九月)

・報告「函館洋教事件一八七二ー七
五年」(日本プロテスタント史研
究会、一一月二日、東京都)

④丑木幸男

・編集「上野国寺院明細帳 第三巻」
(群馬県文化事業振興会、一月)

・紹介「群馬県地方史研究の動向」
(「信濃」第四九八号、信濃史学会、
六月)

・著書「蚕の村の洋行日記」(セミ
ナー原典を読む五、平凡社、七月)

・著書「石高制確立と在地構造ー上
州沼田藩を事例として」(文献
出版、九月)

・紹介「群馬県における地方史研究
の動向(四) 近代・現代」(群馬
文化」第二四四号、群馬県地域文
化研究協議会、一〇月)

・大学出講 お茶の水女子大学文教
育学部 史料管理学

⑤安藤正人
・講演録「二一世紀に活かす行政の
足跡ーアークイブスの話」(「八
潮市史研究」第一六号、二月)

科学研究費補助金一般研究C成果
報告書、三月)

・論文「北欧の文書館と文書館専門
職ー一九九二年訪問調査概要報告
ー」(「史料館研究紀要」第二六号、
三月)

・論文「越後国頸城郡岩手村佐藤家
文書の構造」(渡辺尚志編「近世
米作単作地帯の農村社会ー越後国
岩手村佐藤家文書の研究」、岩
田書院、一一月)

・論文「記録史料学とアーキビスト」
(「岩波講座日本通史・別巻3」
史料論、一一月)

・報告「近現代史料の保存利用とア
ーキビスト」(歴懇「近現代史料
の調査・保存の現状ーアジア歴史
資料センター問題によせて」四
月二二日、東京)

・報告「日本における記録史料の保
存管理及び修復技術の研究状況な
らびにアーキビスト、コンサーバ
ーター養成の現状について」
(ICASA/SAE オースチン、一〇月
二七日)

・講演「日本における古代文書の管
理について」(中国人民大学档案
学院、一一月、北京)

⑥山田哲好
・共編「文書館学文献目録」(岩田
書院、一一月)

・論文「文書館におけるコンピュー

タの利用状況」(「人文学と情報処理」第七号、特集歴史研究と情報処理、三月)

・論文「史料保存をめぐる現状と課題」(「双文」第二二号、三月)
・講演「史料の保存利用と管理」(栃木県立文書館古文書研修会、二月一七日)

・講演「古文書の整理と保存」(栃木県立文書館市町村文書保存担当者講習会、九月一日)

・報告「文書館学文献目録」の編集を終えて」(千葉県立文書館、全史料協関東部会)

・大学出講 立正大学 博物館実習(記録史料の調査・収集・整理・保存管理と利用)

⑦大友 一雄

・論文「近世の御振舞いの構造と「御鷹之鳥」観念」(「史料館研究紀要」二六号、三月)

・論文「近世の産物献上における將軍・大名・地域」(虎屋文庫「和菓子」第二号、三月)

・論文「富善大会報告に関する若干のコメント」(「関東近世史研究」三八号、五月三〇日)

・共編「里正日誌」第七卷(東大和市教育委員会発行、三月三十一日刊)

・報告「史料学の成果と課題―史料管理学の立場から―」(特定研究準備研究会、一月三〇日)

・報告「近世の献上儀礼と地域社会」(幕藩研究会、五月一九日)

・報告「職分と権威―餌差と鳥問屋―」(国史学会報告、六月一七日)
・大学出講 上智大学文学部
・大学出講 上越教育大学 集中講義(日本史Ⅰ)

⑧渡 辺 浩 一
・目録「史料館所蔵史料目録第六一集・尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書目録(その二)」(三月)

・論文「城下町仙台の町共同体と町役人序列」(渡辺信夫編「近世日本の生活文化と地域社会」河出書房新社、一〇月)

・論文「近世都市における史料管理儀礼と由緒―播州三木町を事例として―」(久留島浩・吉田伸之編「近世の社会集団―由緒と言説―」山川出版社、一月)

・報告「城下町仙台の「町列」について」(都市史料を読む会、東京大学文学部、五月二二日)

・講義「現状記録と史料管理」(新潟県立文書館文書調査委員会、新潟県立文書館、五月二一日)

・大学出講 秋草短期大学 日本文学
・大学出講 秋草短期大学 日本文学
・大学出講 秋草短期大学 日本文学

⑨青 木 睦

・論文「記録史料の保存と修復を取り巻く状況」(「記録史料の保存と修復」アグネ技術センター、二月)

・論文「近世における史料保存管理に関する一考察―京都門跡寺院妙法院「日記」を素材として―」(「史料館研究紀要」、26号、三月)

・講演「古文書の保存と災害」(栃木県小山市立博物館古文書講習会、二月二二日)

・講演「阪神・淡路大震災の被災状況と今後の史料保存」(神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会講演会、五月二五日)

・報告「文書館における保存の課題―博物館との相違点を中心に―」(東京国立文化財研究所特別研究会、六月五日)

・講演「古文書の保存管理」(徳島県立文書館講習会、八月四日)

・報告「歴史的記録遺産の救助プロジェクト―啖啄木同時の難しさ―」(全国美術館会議「阪神大震災と美術館をめぐる」シンポジウム、一〇月一三日)

・大学出講 学習院大学 資・史料整理法(学芸員課程)

⑩福 田 千 鶴
・論文「尾張藩士西田相嘉と「諸国郷帳」の成立―史料論覚書その(一)―」(「史料館研究紀要」第二六号)

・論文「十七世紀初頭における城郭政策の展開―城破りの視点から―」(「論集さんせい」第一七号)

・論文「福岡藩における「仁政」の位置―貝原益軒の諫言録の分析―」(「西南地域史研究」第一〇輯)

・小論文「御鷹」をめぐる政治史」(朝日百科日本の歴史別冊「歴史を読みなおす18 ひとと動物の近世 つきあいと観察」)

・共著「江戸の博多と町方衆」はかた学5(朝日新聞福岡本部編、葦書房)

⑪森 本 祥 子
・論文「小規模自治体の文書館―イギリスにおける複合施設―」(「八潮市史研究」第一六号、三月)

・報告「イギリスの地方文書館―アーキビストの必要性―」(地方史研究協議会月例研究会、四月八日)

史料館報 第六四号

平成八年(一九九六)三月三十一日
編集兼 国文学研究資料館
発行者 史料館
〒四一 東京都品川区豊町一ノ六ノ〇
電話〇三三八九五七二二〇
FAX〇三三七八五四四五六
〒二二 東京都台東区寿一五〇一五
有限会社 スミダ
電話〇三(三八四)二七三三三